決　議

道路は、国民生活を豊かにし、活力ある社会経済活動を支える最も基本的な社会資本であり、その整備に対して国民から強い期待が寄せられている。

しかし、首都圏の多くの道路では、交通渋滞による多大な時間損失、経済損失のほか、沿道環境の悪化など、国民の生活や産業活動に深刻な影響を与えている。

これらを改善するため、都市機能を回復し、地域経済に好循環をもたらす首都圏三環状道路をはじめとする高速道路ネットワークを早期に構築する必要がある。

特に首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の整備は、経済活動の生産性を向上させ、生産拡大に資するとともに、企業立地の促進や新たな観光需要の創出など、経済に好循環をもたらすストック効果を発揮し、国際競争力の強化や地方創生の実現に資するなど極めて有用である。

さらに、今後予測される首都直下地震などの大規模災害時における交通機能を確保し、我が国の交通の東西分断を防ぐためにも、圏央道全線の早期完成が不可欠である。

首都圏中央連絡自動車道建設促進会議は、これらのことに鑑み、圏央道の整備について次の事項を強く要望する。

一、釜利谷ジャンクションから戸塚インターチェンジ（仮称）間及び栄インターチェンジ・ジャンクション（仮称）から藤沢インターチェンジ間について、より一層事業を推進することにより、早期かつ確実に全線を開通させること。また、多古インターチェンジから松尾横芝インターチェンジ間については、令和八年度の開通に向け、確実に事業を進めること。

一、暫定二車線区間の坂東インターチェンジからつくば中央インターチェンジ間、牛久阿見インターチェンジから阿見東インターチェンジ間、稲敷インターチェンジから神崎インターチェンジ間については、早期に四車線化を完了させること。さらに、松尾横芝インターチェンジから木更津東インターチェンジ間については、圏央道の全線開通や、第三滑走路の新設など「成田空港第二の開港プロジェクト」による交通量の増加などに対応するため、「高速道路における安全・安心基本計画」の優先整備区間に選定し、早期に四車線化を図ること。特に事業化されている松尾横芝インターチェンジから東金ジャンクション間については一日も早く四車線化工事に着手すること。

一、かずさインターチェンジ（仮称）について、早期整備を図ること。

一、山武パーキングエリア（仮称）及び狭山パーキングエリア拡張について、道路利用者のサービス向上のためにも、早期供用を図ること。また、神崎パーキングエリア（仮称）については、令和八年度の供用に向け、確実に事業を進めること。

一、直轄事業の推進と併せて、有料道路事業を積極的に活用し、早期完成を図ること。

一、自然環境、沿道環境等に十分な配慮を行うこと。

一、圏央道を含む首都圏の高速道路の料金体系について、引き続き、交通等に与える影響を検証した上で、利用者の負担増への配慮や物流の効率化の観点も含め、一体的で利用しやすい料金体系の実現に取り組むこと。

一、圏央道をはじめとする首都圏三環状道路やそれらのアクセス道路などの整備については、人・物の平常時・災害時を問わない安定的な輸送を確保するための基幹となる高速道路ネットワークの強化に資する事業であることから、重点的な投資を図ること。

一、予防保全型メンテナンスを持続的に実施するために必要な予算と新たな財源を確保すること。

一、令和八年熊本地震及び令和八年八月千葉豪雨をはじめ、全国各地で相次いだ豪雨では、災害に強い道路ネットワークの重要性が改めて認識されたところであり、国土強靱化実施中期計画を踏まえた関係予算については、危機管理投資による強い経済の実現の観点も踏まえ、通常道路予算とは別枠で、必要な予算を満額確保すること。

一、計画的かつ長期安定的な道路整備・管理が進められるよう、『「強く豊かな日本」投資枠』の活用及び新たな財源の創設等により、道路関係予算は、近年の資材価格等の高騰、建設業における人件費の上昇等の影響を十分に踏まえ、所要額を満額確保すること。

右、決議する。

令和八年十一月二日

首都圏中央連絡自動車道建設促進会議